

テーマ：北方領土（実践校）

日高管内 新冠町立新冠中学校

■本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、社会科の授業で、北方領土に係る調べ学習などを行うとともに、「北海道ふるさと教育指導プログラム」を活用し、北方領土学習事業（「ジョバンニの島」上映北方領土学習会）の実施や、収集した情報を基に、北方領土問題の解決に向けて、自分の考えをグループで交流し、学級内で発表する活動を通して、北方領土について探究的に学習しました。

■ふるさと教育・観光教育の実践内容

①取組の様子

(1) 課題の設定

社会科の授業で、北方領土の地理的環境や歴史について、学習した内容を基に、生徒が北方領土問題と自分の生活との関わりを考える活動を通して、北方領土問題に対する興味・関心を喚起し、「北方領土問題の解決に向けて、学級内で発表する」という探究的な課題を設定しました。



【社会科の授業の様子】

(2) 情報の収集

課題の解決に向け、インターネットで「元島民の体験談」「ビザなし交流」について調べたり、北方領土期成同盟作成資料などの北方領土に関する情報を収集したりするとともに、「ジョバンニの島」上映北方領土学習会を通して、元島民の心情や北方領土問題について考える場を設定しました。



【新冠町PTA連合会研究大会の様子】

(3) 整理・分析

収集した情報や、「ジョバンニの島」を鑑賞して考えたことを基に、北方領土問題の課題や解決策をグループで協議し、平和的解決に向けた取組の必要性について、考えを深めました。



【グループ学習の様子】

(4) まとめ・表現

学習の成果として、グループで考察した内容や考えを、ホワイトボードにまとめ、学級内で発表したり、各グループで交流したことを発表し合ったりすることを通して、生徒一人一人が北方領土問題を身近な問題として捉え、ふるさとへの愛着や誇りを育むことができました。

②生徒・保護者の感想

- ・北方領土で実際に起こったことを、未来に語り継ぐ必要があると感じました。（生徒）
- ・北方領土に住んでいた方の過酷な日々を思うと胸が痛くなり、今もなお解決されていない領土問題は、日本・ロシア双方が対話をして考えていかなければならないと改めて思いました。（保護者）

■取組の成果（○）と課題（●）

- 「北海道や自分たちの住んでいる地域に、誇りや愛情をもっていますか」のアンケート項目で、「もっている」「どちらかという、もっている」と回答した生徒の割合が83%から98%となり、生徒のふるさとや北海道に対する誇りや愛情を育むことができました。
- 今年度は、生徒だけでなく、保護者や地域の方々に「ジョバンニの島」を鑑賞してもらうことにより、北方領土についての問題意識を学校、家庭及び地域で共有することができました。
- 外部講師として元島民の方の講話を聞いたり、根室地方の生徒と交流したりするなどして、当事者意識を高めることができるよう、学習活動を工夫する必要があります。